

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

せんしゅう こんねんどはじ どうこう ねんせい ねんせい あ うれ とき よぼうたいさく
先週は、今年度初めて登校してきた 1年生と 7年生にお会いできて、とても嬉しいひと時でした。予防対策
のもと、ワクワクとドキドキが混じったような登校だったことでしょう。感染状況ばかりに気を取られて過ごし
ているうちに、気がついたらもう 6月です。今週は、小と中高、毎日それぞれ一学年ずつ登校してきますので、
また楽しみます。子どもたちのいる学校は、やはりいいですね。

がっ がつ つき せいしん まな じどうせいと がっこう なまえ さま
ところで、6月は「みこころの月」です。聖心で学ぶ児童生徒にとっては、学校の名前のもととなったイエス様
の心を思い起こして祝う大切な月です。世界中の聖心女子学院のどの学校も、必ずキャンパスには「みこ
ころのご像」が立っています。小林聖心であれば、中学校の通用口向かって右側、「我に来たれ (Come to
me)」の言葉とともに、両手を広げて私たちを迎えてくださる「みこころのご像」です。胸のところに、燃える
しんぞう えが も あい あらわ せい き はじ
心臓が描かれています。それは、イエス・キリストの燃えるような愛を表しています。17世紀に始まった
ひょうげん
表現です。

せいしんじょしがくいん せいしんかい あい つた しめい はじ しゅうどうかい
聖心女子学院のもととなる聖心会は、「イエスのみこころの愛」を伝えるという使命とともに始まった修道会
です。かつては聖心会のロゴの中に心臓が描かれていましたが、現在は、世界を抱く赤い「Open Heart」
です。

あか さま も あい けつ と せかい お ひら
赤いハートはもちろんイエス様の燃える愛です。決して閉じることのない、世界に向かっていつも開かれた
こころ ひら えが じゅうじか さま あじ いた くる ひょうげん
心です。開かれたところに描かれている十字架はイエス様が味わった痛みや苦しみを表現しています。イエ
スのみこころは常に開かれているから、痛みも悲しみも全部引き受けてくださるのです。暴力、貧困(貧し
さ)、格差(暮らしの差)、差別(わけへだて)、不正(正しくないこと)、自然破壊、そして感染症等、世界の
げんじつ なか にんげん くる あい つづ あい
現実の中で人間とともに痛み、愛し続けてくださるイエスのみこころ。このような愛はコンパッション
(Compassion [共に痛む愛]) です。愛する相手の痛みを放っておかず、共に苦しんでくださる愛です。

こ みな わたし き まね しんがた おび
「みこころの子ども」である皆さんは、「私のもとに来なさい」と招かれています。新型コロナウイルスに怯え
る世界の人々と共に、イエス様のところへ行きましょう。そして、赤い「Open Heart」
の熱い思いに触れることができますように。

